



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」

国立二小だより

令和2年(2020年)7月1日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人



体は松 胸は桜

創立70周年の取組として子供たちがつくったゆるキャラを紹介します。(6年児童)

みんなで考え挑戦する

小林 理人

学校が再開して2週間が過ぎました。気温の変化が激しく、体調管理が難しい日々でしたが、子供たちは毎日元気に登校し、少しずつですが学校の日常が戻ってきています。

段階的な学校再開となり、分散登校や時差登校など、保護者や地域の皆様には大変なご負担をおかけしました。皆様のご理解とご協力により、大きな事故や混乱もなく学校が再開できたことを嬉しく思うとともに、心より感謝申し上げます。

先日、近隣市にお住まいの方からうれしいお電話をいただきました。

「公園で迷子になった3才の我が子を、その公園で遊んでいた4年生の男子が探してくれて、無事見つかりました。本当に助かりました。ありがとうございます。」

といった内容でした。翌日、その子供たちに声をかけ、その時のことを詳しく聞きました。

「お母さんが子供の名前を呼んで探していたので、迷子かなと思い、みんなで探すことにした。」「自転車を使ったり、歩いたりしてみんなで探した。」「見つけたことを探していたお母さんに知らせると、とても喜んでくれた。」など目を輝かせて話してくれました。

その姿は逞しく、言葉遣いもしっかりとしており、家庭で過ごした約3ヶ月間の心の成長を感じました。そして、私からも子供たちに、困っている人に対して優しい気持ちを持てたことや、その気持ちを行動に表したことなど、子供たちの行ったことの素晴らしさを伝えました。

子供たちの成長は、学校生活の様々な場面で感じます。学校の休業や分散、時差による登校など、これまで経験したことのない生活や学習を通して、子供たちは逞しく成長しました。そして、学校での学習や生活をする姿も少し変わったような気がします。みんなで行う授業や給食などの学校生活が当たり前ではないことを感じ、学校でみんなが揃って過ごす時間を大切にしようという前向きな気持ちを持てたのかもかもしれません。そして、それは私たち教職員も同じです。

先日の保護者会で、今年度の学校生活について以下のような話をさせていただきました。

今年は二小創立70周年の大きな節目となる一年です。予定や計画ができないことを残念に思ったり、制限された環境でできないことを悔やんだりするのではなく、今できることや、これまで培った力を活用できることを考え、実行します。そして、できたことを通して、喜びや達成感を味わったり、これからの新しい学校の取組につなげたりすることをめざします。

感染予防対策についても、新しい生活様式として定着させるだけではなく、子供たちが状況に応じた行動を考えたり自分の行動をコントロールしたりする力や、相手を思いやる心を身に付ける機会となるようにしたいと思います。また、私たちにとっても学校の環境や働き方などを見直す機会にしていきます。

そして、これらを通して培った力や心が、前に紹介した4年生や、コロナ禍で逞しく成長した多くの子供たちのように、新しい学校生活や日常の生活で発揮されると信じています。

突然の臨時休業で2月末から登校できなくなった昨年度の卒業生が次の言葉を在校生に残してしれました。(みんなとの輪を大切に 自分から考えて行動する 挑戦することをおそれずに)

そして、その言葉はコロナ禍の1年を過ごす指針となる言葉です。卒業生から託されたこの言葉を意識し、目標や様々な課題に対して、**みんなで 考え 挑戦する**1年にしたいと思います。